

# 文型からコミュニケーションに至る方法とコミュニケーションから文型に至る方法

山崎直樹/関西大, 植村麻紀子/神田外語大, 鈴木慶夏/釧路公立大, 中西千香/愛知県立大, 西香織/北九州市立大  
日本中国語学会北海道支部例会 (釧路公立大学, 2015.09.11)

## 1. 『外国語学習のめやす: 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』とは何か

### 概要

- 外国語を使って、「社会において何らかの課題を解決し、新しく人的関係を構築することができる」能力の育成を目標とした学習の指針
- テーマ性のあるプロジェクト学習を推奨 (例: 自分の住む地域の特産品を紹介できるようにする)
- 15 の話題領域 (自分と身近な人々/学校生活/日常生活/食/衣とファッション/住まい/からだと健康/趣味と遊び/買い物/交通と旅行/人とのつきあい/行事/地域社会と世界/自然環境/ことば)
- レベル 1~レベル 4 のコミュニケーション能力指標

### コミュニケーション能力指標とは

(レベル 1 の例、レベルは 1 から 4 まで)

- 名前 (姓名) や属性 (高校生であること、学年、年齢、誕生日など) を言ったり、尋ねたりできる。【自分と身近な人びと】
- 普段持ち歩いているものや身につけているものについて、会話できる。【日常生活】
- 各部屋 (台所、トイレ、寝室、居間など) の名称を、言ったり、聞いて理解したりできる。【住まい】
- からだの調子 (疲れているか、気分が悪いかなど) について、言ったり尋ねたりできる。【からだと健康】
- お店の開店・閉店時間を、尋ねることができる。【買い物】
- 自分の行きたい場所を、口頭でまたは書いて伝えることができる。【交通と旅行】
- 自分や交流相手の住所や宛名を書いたり、書かれた住所や宛名を見て理解したりできる。【人とのつきあい】
- 自分の住んでいる町や都市の、有名な場所や食べ物などを、言うことができる。【地域社会と世界】
- 自分の話す学んでいる言語についての相手の評価を、聞いて理解できる。【ことば】

### 求められる言語能力 (レベル 1 の例)

- 自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力を得られれば簡単なやりとりができる。
- 自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で表現することができる。
- よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解することができる。

(以上については[1]を参照)

## 2. 外国語の学習における言語使用の 4 つの段階

Step 1: 語彙を文法規則にあてはめて「構造」を訓練する段階

Step 2: 「尋ねる」「頼む」「紹介する」などの「機能」を訓練する段階

Step 3: 「土産物屋でその土地の名産品が何かを尋ねる」「留学生に中国語を教えてくださいと頼む」「日本のことをよく知らない中国人に自分の住んでいる町を紹介する」など「社会的関係を考慮した言語使用」を訓練する段階

Step 4: 「実際に中国の特定の都市に行き情報を収集して名産品を手に入れる」「学内の留学生と交渉し、言語交換をする約束を取り付ける」「自分の住んでいる町を紹介するビデオを作成し、姉妹都市/提携校に送り、交流する」など、何らかの課題を解決したり、新しい人間関係を構築するなどの「社会における成果」を手に入れる段階

(Step 3 までは[2]を参考にした)

## 3. 2 つのアプローチ

語彙・文法から始めて「コミュニケーション」(の練習) に至る(G to C)

- 語彙と文法を導入し、機械的なドリル式練習をして、そこからだんだんと〈使う練習〉へとシフトして

行き、最後に、学習した項目を使って〈ちょっとした会話〉(コミュニケーションの訓練のつもり)をする。

#### コミュニケーション能力を身につけるための目標から始めて語彙・文法に至る(C to G)

- 「どのようなコミュニケーション能力を身につけさせたいか、それによってどのような「社会的な成果」を得させたいか」を目標にし、そこから、「教室でどんな活動をするか」「どんな知識を学習項目として与えるか」を設計するアプローチ。

### 4. それぞれの問題点

#### G to C

- 統一的なテーマに沿ったコミュニケーションの練習は望めないかもしれない。
- 「コミュニケーションの練習」のつもりでも、Step1 か Step2 でおしまいになることが多い。

##### 第1課

- A: 你好!  
B: 你好!  
A: 你贵姓?  
B: 我姓田中, 叫田中惠子。  
A: 我叫王力。我是学生。你呢?  
B: 我也是学生。请多关照。

##### ポイント

- I. 人称代名詞(我、你、他、她、我们、你们、他们、她们)
- II. 動詞“是”(你是学生 / 他是老师)
- III. 助詞“呢”(～は?: 我是学生, 你呢? / 我们学习汉语, 你们呢?)
- IV. 副詞“也”(我也是学生 / 他也姓王)
- V. “请”(どうぞ～してください: 请坐 / 请您喝茶)

##### 第2課

- A: 这是乌龙茶吗?  
B: 是。  
A: 那也是乌龙茶吗?  
B: 不是, 这是花茶。  
A: 这是什么?  
B: 这是中国的点心。

##### ポイント

- I. 指示代名詞(这、那、哪)
- II. 疑問を表す“吗”(这是红茶吗? / 你是学生吗?)
- III. 否定を表す“不”(这不是红茶 / 我不叫宋晓明)
- IV. 疑問詞“什么”(这是什么? —这是红茶 / 你姓什么? —我姓田中)
- V. “的”“～の…”(中国的点心 / 我的书)

これらの学習項目をすべて「使う練習」にまでもっていけるか?

それらの「練習」はテーマ的に統一された活動か?

それらの「活動」はほんとうのコミュニケーションにどこまで近づいているか?

#### 「ほんとうのコミュニケーション」に近い活動を作るために必要な要素

1. 具体的な場面・役割がある。
2. ことばのやりとりをする目的がある。
3. 自分と相手の間にインフォメーションギャップ(情報代溝)がある。
4. その話題を自分の問題として考えられる。
5. その話題の向かう方向を自分で選択できる。
6. 創造的なやりとりができる。
7. 常にメッセージの意味を考えている。
8. 相手が言っていることが理解できているかどうかを確認する手段、および、自分が言っていることが理解されているかどうかを確認する手段がある。

(當作靖彦先生の講義資料を参考に作成した)

#### C to G

- どのような文型や語彙を使用するかは、教師の裁量による。> 教師の負担の増大。
- 学習者のもつ構造に関する知識がクラス間で異なる。> 学習者の「受け渡し」に問題が生じる。

## 5. C to G のための文型リスト

### 指標をタスクに分解

指標：自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物、食べられないものなど、料理名や食品名を、口頭で伝えることができる（話題領域：食、レベル 1）

タスク：(1) 好きな／嫌いな食べ物・飲み物を伝える。(2) ふだんの生活で食べないものを伝える。(3) 何らかの理由で食べられないものを伝える。

### 言語表現の抽出

〈めやす〉の 3 モード	提示的コミュニケーション	解釈的コミュニケーション	対人的コミュニケーション
我々の文型リスト	伝える	理解する	やりとりする

(コミュニケーションの 3 モードについては[3]を参照)

タスク	言語表現	モード
何かの症状を呈している人に対し、薬を持っていると伝える	我有药。	伝える
症状を言って薬を持っていないか尋ねる／答える	我感冒了，有没有药？—有。 / 对不起，没有。	やりとり

### 定項と変項の決定

変項の数	表現例 (太字部分が変項)	文型
3	我在 <b>大学</b> 学 <b>汉语</b> 。	〈ヒト〉 在 〈学ぶ場所〉 学 〈学ぶ対象〉
2	我在 <b>大学</b> 学 <b>汉语</b> 。	我 在 〈学ぶ場所〉 学 〈学ぶ対象〉
1	我在 <b>大学</b> 学 汉语。	我 在 〈学ぶ場所〉 学 汉语
0	我在 大学 学 汉语。	我 在 大学 学 汉语 (= 定形表現)

### 語彙リストの作成

文型	変項 1 に入る語彙の例	変項 2 に入る語彙の例
我 在 〈学ぶ場所=変項 1〉 学 〈学ぶ対象=変項 2〉	大学，高中……	汉语，英语，数学……

## 6. C to G の利点

### (1) ある言語形式の不在をどう導入するか

例：過去の習慣（以前，我常常去瑞士滑雪）を表現するときには“了”を使わない……文法項目として“了”が出てきたときに教えても意味がないが、「こどもの頃、あなたが家族とよく行った場所を教えてください」「〇歳のときできなかったことで、今ではできることを教えてください」のようなタスクを与えれば可能。

### (2) 言語の創造的使用と語用論的なピジン化は紙一重、インプットには要注意

インプット	類推によって産出されたアウトプット
例 a: 我爸爸不让我去留学。	我的钱包不让我去留学。 …おもしろい
例 b: 我会开飞机。	钏路公立大学会学习经济。 …文法的に誤っている
例 c: 有笔吗？	有菜单吗？（※レストランで） …語用論的に問題がある

※場面や立場、コミュニケーションの目的を限定した上で、言語表現を与えれば、不適切な般化を抑制できる？

### (3) Google Politeness

「実用にはまだ遠い」機械翻訳と同等のアウトプット

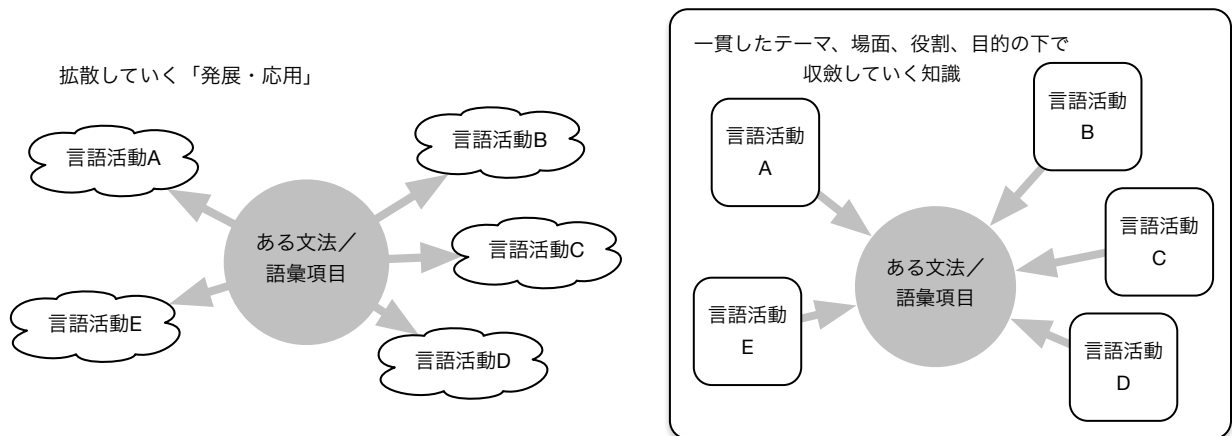


こちらも温かいドリップコーヒーです。  
 どうぞご利用くださいませ。  
 This is also warm drip coffee.  
 Please use it.  
 这边也是暖的 Drip coffee。  
 请利用。

(釧路市内の某ホテルの案内, 2015.9.10 確認)

(4) 学習者の頭も「関連性」を求めている

- 従来の教科書は学習項目（文法・語彙中心）ごとに複数の例文が挙げられているが、例文ごとの関連性がなく、闇雲に並んだ例文をみても、それを実際にどのように使えばよいか、どんな場面で使われるかがわかりにくい。
- “几”の例文として“你家有几口人？”你要几个？“が続けて並んでいたところ、ある学生が後者を「お子さんは何人ほしいですか？」と訳してクラスは大爆笑になった。その学生の頭の中には「家族」という話題が想定されていたと推測される。しかし、むしろそのような頭の働きのほうが正常なのである。
- ある学習項目を教える際に、場面や話題がバラバラの例文を提示し、「こんなときに使える、そんな風にも使える」という情報を提示するだけよりも……



参考文献

[1] 国際文化フォーラム(2013)『外国語学習のめやす: 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』. 東京: ココ出版.

[2] Littlewood, W. (1981) *Communicative Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.

[3] National Standards in Foreign Language Education Project(eds.) (1999) *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*. Yonkers, N.Y. : National Standards in Foreign Language Education Project.